

5 「農家レストラン」【真狩村】

真狩村で農家を営んでいる佐伯さん夫婦
がはじめた、真狩村初の農家レストラン
「丘の上のレストラン Pomme (ポム)」



お金も必要だけど、
仲間とか
人が集まれば
解決する方法は
あるんじゃないかな



佐伯 秀範さん



Q：レストランを始めた理由は？

A：少しでもたくさんの人に美味しい野菜を届けたいって思ったし、僕らの作っているところで食べてもらおうと、やっぱり本当の味がするんじゃないかなって。あと、直売所とか農家レストランってどんなものなのかっていう調査研究を何年かして、レストランをもったら、今までうちで作ってきた「こだわり」をみんなに味わってもらえるんじゃないかなと思ったんです。

Q：お店ができたことで、地域や周りに変化はありましたか？

A：老人会だとか、そういったところもうちを使って、みんなの集まれる場所ができたっていうのがひとつかな。昔はどこでもよかったんだけど、今は集まれる場所が限られちゃってるんだよね。だけど、高齢者もここへ来るために、行動範囲がちょっと広がったかな。

Q：佐伯さんは生まれも育ちも真狩村ということですが、従業員の方も真狩村出身ですか？

A：いや、みんな真狩出身じゃないけど、元々うちの農業を手伝ってくれていた人で、種植えから収穫までしてる。だから、お客さんにも色んな説明ができるんだよね。実は、今年の春、真狩高校を卒業した子が「真狩の役に立ちたいから、うちで働かせてもらえないだろうか」と言ってる子がいて、今一生懸命勉強してる。真狩高校を卒業した子が、真狩で働くっていうのは、すごくいいことなんだよな。高校を潰さないためだけじゃなくて、子ども達がここで働いてくれる環境を作らなきゃいけないよね。

Q：これからのビジョンについて教えてください。

A：食べる所であるだけでなく、農業体験とかもしてもらって、苦労というか、そっちのほうも知ってもらえたら、真狩の応援団が増えるんじゃないかなと思ってるよ。あと、自家製パンの販売だとか、ここには食材がいっぱいあるんで、やれることはいっぱいあるよ。

Q：最後に、これから一歩踏み出したい！と思っている人に一言お願いします。

A：お金も必要だけど、仲間とか、人が集まれば解決する方法はあるんじゃないかな。色んな人に相談して、必要な情報を集めて、自分の思いを形にしていってください。

インタビューを終えて（生涯学習課：中西 めぐみ）

佐伯さんは「いつか農家レストランができたらいいなと思っていた」とお話ししてくださいました。農家さんではなくても、同じように「いつかカフェをやってみたい」「いつか地域のブランドづくりに携わってみたい」・そんな風に思っている方はいると思います。たとえスタートしたときには意図していなくても、その思いや夢を叶えることが、地域の子供が「地域に残って働く」という選択肢に繋がっているということもあるかもしれません。

詳しくはこちら

